

# 川本裕子

早稲田大学大学院ファイナンス研究科教授

高井 経済、金融機関の工千  
スパートである川本さんは、  
小泉内閣における構造改革  
のフレームのお一人。お会い  
するのは今回が初めてです  
が、「ゆこIAレポート」  
では川本裕子の経済論  
を執筆されており、お互いで  
ギュラー同士といつことで、  
私としては勝手に親近感を  
持ち(笑)、難しい問題をわか  
りやすく教えていただける  
よう、やうくばらんにお聞き  
したいと思っています。

川本 私も初めての感じが  
しませんから(笑)、どうぞよ  
ろしく。

高井 それでは早速(笑)。  
著書の川本裕子の時間管理  
革命で、特に印象に残ったの  
が「出口から考える」という  
発想。今、日本経済が抱える  
最大の課題は、政府の非効率

さをどう改革するかだと言  
われますが、国の財政はま  
るつきり出口が見えない状態  
に陥っているように思いま  
す。その中で小泉内閣が  
取り組んだ道路民営化問題  
では、猪瀬直樹さんらとともに  
に道路関係四公団民営化推  
進委員会の委員として、大  
激論を戦わせられ、一応の決  
着がついた。しかし、どうもあ  
の二〇〇四年の道路公団民  
営化法案の内容は、出口が  
よくわからないままなので  
結構なたたかいで、なかなか  
決着がつかないままなので  
あります。ただおもしろい  
ところ、あの法案では出口は見  
えません。あいだだけの激論を  
戦わせた我々委員会の意見  
は、本当に残念なことに、最  
終的に尊重されなかった。経

四〇兆円もの借金は、  
誰が払うのか?

さをどう改革するかだと言  
われますが、国の財政はま  
るつきり出口が見えない状態  
に陥っているように思いま  
す。その中で小泉内閣が  
取り組んだ道路民営化問題  
では、猪瀬直樹さんらとともに  
に道路関係四公団民営化推  
進委員会の委員として、大  
激論を戦わせられ、一応の決  
着がついた。しかし、どうもあ  
の二〇〇四年の道路公団民  
営化法案の内容は、出口が  
よくわからないままなので  
結構なたたかいで、なかなか  
決着がつかないままなので  
あります。ただおもしろい  
ところ、あの法案では出口は見  
えません。あいだだけの激論を  
戦わせた我々委員会の意見  
は、本当に残念なことに、最  
終的に尊重されなかった。経

ものになってしまった。  
高井 そのあたりが、一般的の  
国民にはよくわからないので  
すね。

川本 旧公団の道路資産と  
債務は(新会社とは別の)独  
立行政法人が保有すること  
にならため、民間投資家が  
自分のリスクをかけて厳しく  
経営監視する民営企業の  
規律を持つ仕組みにはなら  
なかつた。独立行政法人は  
経営的には政府と同義です。  
つまり、政府が支配し続ける  
形式で、借金をさらに増や  
して道路建設が進んでしま  
うかも知れないと、こうこと  
です。

川本 私は小泉内閣の掲げ  
る構造改革は、方向性も非常  
に正しいし、全般的に評価を  
しています。ただおもしろい  
ところ、あの法案では出口は見  
えません。あいだだけの激論を  
戦わせた我々委員会の意見  
は、本当に残念なことに、最  
終的に尊重されなかった。経

論的には「民営化」という  
より「国営の固定化」という

道路関係四公団民営化推進委員会  
日本道路公団、首都高速道路公団、阪神  
高速道路公団及び本州四国連絡橋公団  
に代わる民営化を前提とした新たな組  
織及びその運営性の確保について一連の  
検討するため、法律により設置された  
機関。平成十四年十一月六日に「意見書」  
を内閣総理大臣に提出し、その後はこ  
れを受けて講ぜられる施策の実施状況  
の監視を行っていた。平成十七年九月  
三十日をもって廃止。

未来の社会に責任を持つ。  
今こそ国民が自覚を。



そもそも道路公団の最大の問題は、高速道路会社四つで合せて四〇兆円以上もの返せないかもしれない膨大な借金をすでに今、抱えてしまっていること。そして、「つけを誰が払うのか」ということを、多くの人が楽観視してしまうことなど、それでいて情報の不十分さ、不透明さもありますが、これが一番危ういと思うところです。

高井 そのつけは国民が払っていることなので、情報の不十分さ、不透明さもありますが、これが一番危ういと思うところです。

川本 もちろんそのなので、情報の不十分さ、不透明さもありますが、これが一番危ういと思うところです。

高井 さて、今度は、郵政民営化法案が、途中で衆議院選挙が行われるという事態まで引き起こすという糾余を経て、通りました。川本さんは、民営化法案は必ず成立させなければいけないとお考えだったわけですが、郵政の出口としては、一つあると思います。一つは、郵便というサービスの利便性からのお視点。もう一つは、国営の金融機関としての郵貯の問題。

川本 もちろん、郵便局のネットワークが万全に張られていれば、それに越したことはありません。しかし利便性が負担している。すなわち意識しなくとも今の郵便局は、もちろん他の地域の人気が負担する必要はあるでしょう。ただ、今の郵政の仕組みではどういったペスト構造かが

うと、

川本 もちろんそのなので、情報の不十分さ、不透明さもありますが、これが一番危ういと思うところです。

高井 まずは、利便性はトータルを維持するところ名目のもとでどのくらいのコストがかかりますか。が明らかにされるべきです。

川本 利便性という言葉のなかにいろいろなことが内包され、曖昧にされている。今の郵政の仕組みは理不尽なコスト負担が隠されていて持続可能ではない。そういう不透明な仕組みをやめようと言ふのが民営化です。利便性は、民営の会社が参入するとか、あるいは他の通信手段に変わっていくことでかなり代替できる部分があるのでは、ないか。最低限の利便性がそれでも実現できないときにはもちろん他の地域の人気が負担する必要はあるでしょう。ただ、今の郵政の仕組み



#### Profile

川本 裕子(かわとも ゆうこ)  
東京都生まれ。東京大学文学部社会心理学科卒業。  
オックスフォード大学大学院経済学修士課程修了。  
1982年旧東京銀行入行。1988年マッキンゼー東京支社入社。  
内外の金融機関や企業経営のためのマクロ・ミクロ両面からの  
リサーチやコンサルティングに従事。  
2004年4月より早稲田大学大学院ファイナンス研究科教授。  
金融庁顧問(「金融タスクフォース」メンバー)  
大阪証券取引所社外取締役などを務める。  
主な著書「日本を変える・自立した民をめざして」、「銀行収益革命」

かつとも明らかにならな。利便性が減るから民営化すべきことこの意見は本質を正しく捉えてなこと思います。

高井 銳い指摘だと思いますが、地方の財政難などがある中で、郵貯が持っているお金が今度、民営化されて市場に出ると、地方の財政にどうひび、また厳しい状況になるのではないかと私などは思ってしまいます。

川本 今のもとにある事業がつまづいたためしはあります。財政投融資のしくみも戦後、高度成長期には意義があつたとしても歴史的な役割は終えています。市の資金の流れを、市のもとに戻すところのが入口の民営化、出口の民営化です。そういった意味では、現在の民営化法案で示されていて完全民営化までの10年間の移行期間は長すぎます。この期間は国の関与が残つたまま事業範囲はどんどん広がり、市場独占が強まる懸念がある。今後、見直しは必要でしょう。

## 「投資の評価」と

### 「国の負担の範囲の明確化」が必要

高井 「負担の見合の収益」とこののが一つのキーワードのような気がしますが、その仕組みをつまづいては具体的には何が必要ですか？

川本 「投資に対する評価をきちんとする」とこのとでしょ。これまでの日本は高度経済成長期の枠組みの中で、失敗は成長が消していく、「こんな投資に対する評価が、どこかなし崩し的になってしまう」と。

高井 国が責任を持つべき範囲という中で、川本さんは、少子化対策および若年層への対策が最重点課題だと考えておられるようですね。

川本 私は少子化の問題は政策の無策の結果だと思ってます。今、あらゆる政策を見ると、高齢者に手厚く、若い世代には対策が十分回りでいるのが、この国既存の形

しながら、この国既存の形を急ぐべきだと思します。内閣府が調査した「経済白書」では、「社会保障の給付や公共事業が減つてもいいから、これ以上負担を増やして欲しくない」という人が圧倒的多数という結果が出て

維持は国民に受け入れられます。そこで、この仕組みが少子化を促進していく、そういう思ひ

川本 日本は少子化を促進する政策になっています。先進諸国の中で、日本は育児サポートに対する公的貢献が最も低い。また、育児手当といつものには年齢制限や所得の制限があり、育児手当が受けられない家庭は多い。ところが、高年齢層の年金には、年齢制限や所得制限はない。また、お産の費用は医療保険の対象ではありません。しかし、高年齢層の医療支出に対しては歯止めが非常にかかりにくい。育児の費用は税引き後から払いますが、医療費には税金の控除があります。

無料バスを配つたりしてしまいます。あらゆる仕組みが少子化を促進していく、そういう思ひませんか？





る」には、「これから世界経済を見た上でも非常に意味ある」とあります。

一方で、中部で開催された万博には、新しい消費のあり方のヒントがあったのではないでしょうか？

高井 そのヒントとは？

川本 私も万博に行った時は、何時も列に並ばれ、それには正直辟易でしたのですが、そんな状況下でも、後ろのおばあちゃんたちがすごく楽しそうにしていた。また、一八五日の開催期間で

二〇〇回以上も来た人もおられるところ。話を聞いてみると、「こいつして待て話しているだけでも楽しい」「知らない人もお知り合いになれるよね」とおしゃってい

る。「この地域にはそんな万博の体験を通して、新しい余暇の使い方、楽しみ方を実感した人が大勢いらっしゃるわけです。そこにはビジネスチャンスがあるかもしれません」

決まりそうです。組織や制度に依存せず、自分で決めた「出口」に向かって、描いた道筋を進む。もちろん未来社会への責任も忘れない。カレンダーを取り替えるこの時期こそ、自分の「出口」に思いを巡らせ、新しいエネルギーを得しななりました。

今は何事も先行き不鮮明で、誰もが漠とした不安に苛まれていますが、川本さんから「迷なく力強く生きる」と「ハイペクトを受けました。それは自分で考え、判断するという迫力です。

川本さんは近著「時間管理革命」で、問題解決のために「出口から考える」を説いておりま

高井 なるほど。非常に基

本的なことですね。

川本 そうです。基本的なこ

とがなされていない。この何

年も、若手タフブルたちは子供

を持つない理由の第一に「子

育ての「コスト」を挙げていま

す。しかしその対応はおせな

り。子供を持つか持たないか

は個人的な話ですが、政策が

それを促進しているような

ら、それはやめるべきだしき

ちゃんと子供たちを教育する。

そうして若年層を労働市場に受け入れて貴重な人的資源として鍛える。それでじ

## 「アを極め、万博で得たヒントを生かす

日本どこののは、経済が成長して年金もきちんと支払える社会になると思います。

川本 そうですね。

高井 最後に、中部への提言

を。中部はよく「堅実」な地

域と言われ、製造業は大き

な注目を集めていますが、ど

うか。それでも非常に

「かでもっとジャンプしたい」という思いもあるのですね。

川本 もう十分ジャンプし

ていいのです。慣れないも

のを入れてくるよりは、「ア

と「うのをきちんと極め

ていいのです。

高井 多岐に渡る貴重な

提言本当にありがとうございました。

### ひと口メモ



高井 一(たかいはじめ)

東海テレビアナウンサー。1953年、京都府生まれ。同志社大学文学部新聞学科卒。1976年、東海テレビに入社。名古屋大学大学院多元数理科学研究科修了。現在「ふるさと紀行」などの番組を担当。